みなみ

南小の校訓：ほんきに　なかよく　がんばる

石岡市立南小学校
学校だより　No.６
発行日　2023.6.19
文責　校長（山口）

主体的・対話的で深い学びを目指して

学校は、文部科学省が示す「学習指導要領」に則って、様々な教育活動を計画・実施しています。

現行の学習指導要領改訂の背景に「情報化」や「グローバル化」などの急激な進展があります。特に近年はAI（人工知能）の進歩により予測を超えて社会的変化が進展しています。今、学校に在籍する児童が社会に出る2030～2040年代の社会は、政治・経済が激変している可能性があります。AIにより今ある職業がなくなり、今までにない新たな職業が生み出されるとの予測もあります。こうした変化の激しい社会では、ちょっと前まで最新だった知識は、あっという間に新しい知識に取って変わり時代遅れになってしまいます。そのため、社会の変化に対応するためには「常に学びつづけること」が必要になると言われています。そこで、小学校の段階から「学ぶ力としての学力」を育もうとする考え方が明確に打ち出されました。

その学習指導要領は平成29年３月に告示され、令和２年度から全面実施となりました。今年度で４年目になります。改定のポイントの１つに「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善があります。授業では、児童が主体的に課題を見つけたり、探究の課程でヒトやモノやコトとの対話を通したりして、学べる機会を用意することが求められます。そして児童の主体的なヒト・モノ・コトとの対話により、より深い学びに到達する活動を通して、資質・能力を育もうとしています。しかしながら、今までのコロナ禍もあって「対話的」な学びは制限され、試行錯誤を通して「深い学び」に至る教育実践に切り込むことが難しい現状がありました。

今年度は、コロナが５類に移行されたこともあり、ペアやグループ活動などの対話的な学びの機会を今までより多く設定することで、児童同士のアウトプットを互いに聴き合う活動や、試行錯誤から深い学びに至る授業を構築していきます。学校の方向性は、児童の主体的な学びを支える観点から、「教えるから学ぶへ」「管理から自己決定へ」「指導から自走への支援へ」という視点で今までの教育活動を捉え直し、学習指導要領の着実な実施を図ることになります。

ご理解いただきたいこと

保護者や地域の皆様が学校の教育活動をご覧になるのは、学校行事や参観が多いと思われます。今まで出来映えを意識し教師主導だった取組は、児童が考えたり話し合ったりして主体的に判断する場面を重視した取組になります。したがって、教師主導の今までと比べると、時間がかかるだけでなく、完成度や見栄えも大人の感覚と違うことや、取組みの内容や種類についても少なくなる傾向にあります。

これから行事等を参観する際には、単に児童の活躍や出来栄えを楽しむだけでなく、完成までに児童がどのように思考・判断してきたのか、という過程を大切にする視点が必要です。児童がその発達段階に応じて取り組んできたことを、見栄えが良くないという理由で「だめだ…」と評価しては、児童に自信や達成感は生まれません。一つ一つの努力の過程を大切にし、その時々の思いや工夫を聴き取って受け止め、良い部分は褒め、改善すべき部分は次に生かす言葉かけが大切となります。